



■ 謹んで新春の言祝ぎを申し上げます



あけましておめでとうございます。昨年末、コロナパンデミックの中、都草は創立15周年を迎えその記念式典を無事終えることができました。これは今日までご尽力いただいた会員の皆様はじめ多くの方々のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

またこの度表賞された会員の皆様にはお慶びを申し上げるとともに、心より敬意を表したいと思います。

さて、式典の冒頭にご講演いただいた、前京都府知事の京都産業大学教授山田啓二様の「京都の未来は文化から」では、アフターコロナを見据えた都草の観光・文化に対する一つの視座が示されました。「文化の素晴らしさがあって初めてその光を観に来る」「文化が観光である」そもそも、日本文化の中心である京都が世界的人気の観光地であることは、この点に理由がある訳です。とりわけ「新しい京都観光の役割は、地域・生活に目を向け人々の豊かな人生の光になること」それが「即ち都草の役割である」というメッセージは、都草が創立20年に向けて新たな一步を踏み出すにあたり、杖とも柱ともなる言葉となりました。一方では、「リアル都草とバーチャル都草で倍の力を発揮する」という‘宿題’もいただきました。

当日、井上満郎先生からいただいたお祝いの言葉も胸に刻みながら、現代の大きな社会変革の中にあっても都草のあるべき姿を見失わず、これからも皆様と共に、こつこつと地道に歩を進めてまいり所存でございます。どうぞ本年も倍旧のご指導ご協力をよろしくお願い申し上げます。(理事長 小松 香織)

■ 都草15周年記念式典開催

12月19日、京都学歴彩館大ホールにて都草創立15周年記念式典を開催、92名の会員が参加されました。式典ではまず、前京都府知事の山田啓二氏に「京都の未来は文化から」と題し、講演をしていただきました。都草がさらに20年30年と進展を続けるための方向を示してくださいました。



データを示し迫力ある話法に私たちはひきつけられ、大変勉強になりました。講演の後は篠笛奏者の佐藤和哉氏に、代表作「さくら色のワルツ」など5曲を披露していただき、爽やかで透明な音色に癒されました。

後半の記念式典に移り、小松香織理事長の挨拶のあと、都草顧問の井上満郎先生からご祝辞をいただきました。引き続き行った功労者表彰では、都草の活動に貢献のあった10名の方々をご紹介、代表して住邦夫会員に感謝状と記念品を贈呈しました。さらに京都探訪シナリオコンテストで入賞した5作品を発表、最優秀賞の久宗圭一会員に表彰状と金一封を贈呈しました。久宗会員による受賞作品の発表で式典は終了、参加者全員で記念写真を撮影して散会しました。

このように多くの会員に参加していただき創立15周年記念式典を開催できましたことは、さらに結束を固め、前進していくために非常に重要な機会となったことを改めて感じました。常に前に進む心意気を大切に、さらに20周年へと発展することを願っております。ご支援いただきました皆様に感謝申し上げます。

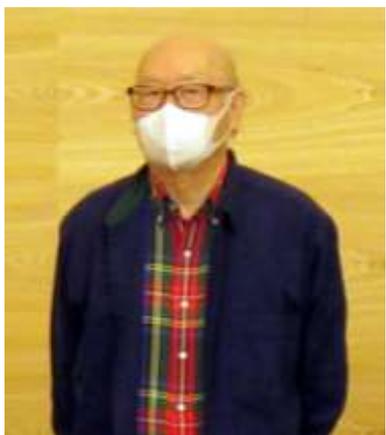
(15周年記念式典実行責任者 藤井 久美子)

■15周年記念功労者表彰を受けて



このたび他の9名の方々と一緒に功労者表彰をしていただきました。私個人としては思いがけないことで、正直に言ってノーベル賞をもらったくらい嬉しく思いました。皆様のご好意に感謝申し上げます。思い返せば15年前、私はまだ60代後半で若さも少し残っておりました。このとき始まったばかりの京都検定に運よく合格し、同じ合格者の中にいた坂本孝志さんに偶然出会ったのが都草入会のきっかけです。

都草と歩いてきた日々は、私にとって幸せな日々でした。都草に与えたものより受けとったものの方が多かったと思っております。私はいま80歳を越え人生の最終レースに入りましたが、もう少し都草と共に歩きたいと思えます。皆様よろしくお願ひ申し上げます。(会員 住 邦夫)



このたびは功労者表彰という身に余る栄を賜り感謝申し上げます。思い起こせば早や14年、知的レベルの高い皆さまの中で引けを取らないのは年令と在籍年数だけでして「功労者表彰」にあらす「高齢者表彰」であろうと認識しております。

思い出深いのはトリオロス・バカボンズなる劇団(スター女優の小松さん[恐れ多くも今や理事長]、枝雀兄こと伴仲さん、もと苦(く)毛(げ)の福井)を結成し各種行事などで怪演を披露したことです。多少は皆様の慰めになったのではと変な自負をしております。また監事時代には年々拡大する業容に対応できる財務経理体制の改善強化を図るべく、藤井さん(現事務局長)を中心に高橋明俊さん(現監事)ともども協力推進したことが思い出されます。

コロナ禍での「都草色とりどり」の企画では、「雑学・どうでも良い話」と称し20数回寄稿させていただきました。暗い世相の中、少しでも笑っていただけたなら幸いです。

15周年記念にわたしの駄句を2句。「15年 咲きつづけたら 都草」「都草 道草せずや 15年」

人生百年時代、未だ未だくたばらずにがんばる所存です。最後に人財の宝庫たる我らの都草の益々の発展を祈念致します。(会員 福井 大作)



都草の内容豊かな活動に時々参加しているだけの私が、このたび功労者として感謝状をいただきましたこと、ただただ気恥ずかしい思いでいっぱいです。私の活動としてご紹介いただきましたことの一つとして、2014年に来日されたグルジア(ジョージア)大統領ご夫妻に時代祭の説明役を務めさせていただいたことがあり、今改めてその貴重な思い出を蘇らせております。限られた時間内で、日本の歴史と風俗をどこまで伝えられるか不安でしたが、先頭に行く維新勤王隊の躍動感溢れる鼓笛の行進、錦の御旗を掲げた隊列、そして維新の志士達と明治維新に至った説明に大統領がグッと体を乗り出して「オー、リヴォリューション！」と声をあげられ、すぐに「その革命は日本にとってよかったのか？」と質問されました。明治維新は日本が近代国家として歩むきっかけになったことを話すと

「それはよかった」と本当に嬉しそうな表情で話されたのが印象的で、やはり近年独立を果たした国の元首としての言葉の重みを強く感じました。単なる儀礼として訪問国の祭見物をするという姿勢ではなく、真剣にその祭の意義を理解し学ぼうとされた大統領の姿勢に、こちらも相手の方の求めておられることを素早くキャッチして説明する大切さを学ばせていただいた思いでした。このような貴重なチャンスを与えていただいた都草に私の方こそ改めて感謝の想いを深くしております。(会員 大谷 芙美子)

■都草 京都探訪シナリオコンテスト報告



都草 15 周年記念事業として、「京都探訪シナリオコンテスト」を実施しました。都草会員の皆様が持っておられる卓越した知識、アイデアを都草の資産とすべく、「京都の文化・歴史の魅力を伝えるまち歩きコース」のシナリオを募集したものです。

その結果 60 件もの応募をいただきました。応募いただきました会員の皆様に感謝申し上げます。審査につきましては、都草顧問・京都市歴史資料館長の井上満郎氏、京都市考古資料館長の山本雅和氏、京都 Brighton Hotel 総支配人の林恵子氏、平安女学院客員教授の山岡祐子氏、都草相談役の林寛治氏の 5 人の皆様をお願いいたしました。審査にあたりましては、

- 京都の文化・歴史の魅力を伝える内容であるか
- まち歩きコースが楽しいものであるか
- シナリオに独自の視点（オリジナリティ）があるか

などを基準に審査員の皆様にご採点いただきました。その結果

最優秀賞 「ノーベル賞を生みだす“知”の殿堂、京都大学を探索する」（会員No.648 久宗 圭一）

優秀賞 「京都の繁華街にこんなにたくさんのお寺が！」（会員No.49 深澤 美佐子）

々 「幕末の薩長戦いの殉職碑と維新三傑の面影」（会員No.138 熊谷 喜輝）

々 「洛中のキリシタン史跡を歩く」（会員No.650 伊藤 一彦）

々 「六角堂から因幡堂へ 二つの町堂（まちどう）を巡る」（会員No.480 奥西 不二）

切り口賞 「京の和菓子物語を巡る」（会員No.300 藤井 久美子）

以上の作品(コース)を、12月19日(日)の都草15周年記念式典にて表彰しました。

今後、受賞作品のみならず、応募作品については新規の都草オリジナルコースとして活用してまいりたいと考えております。（理事 豊田 博一）

■京都探訪シナリオコンテスト最優秀賞受賞に思うこと



京都の街を歩くと、其処彼処で史跡・神社仏閣・名勝に行きあたります。どれも数百年の歴史に培われた重みと風格を有しており、その一つ一つに滋味に満ちた物語があります。たとえ一本の駒札や道端にひっそりと立つ石碑であっても、悠久の歴史の中に生きた多くの人々の足跡が浮き上がってきます。

今回のコンテストの趣旨は、京都の文化・歴史の魅力を伝えるまち歩きコースというのですが、そもそも京都の街にはこのような散策コースは無限に考えられます。

私には、京都の街に対する一つの思い入れがあります。京都は決して過去の遺産にのみ立脚している古びた観光地ではなく、今現在もアクティブに躍動している人口 150 万人の大都会であり、日本の先進科学・文化を力強く牽引している先端都市であるという思いです。

従い、今回応募するにあたって、「未来に向かって、「今」、脈動している息吹を感じられる場所を巡る散策にすることを目指し、「ノーベル賞を育む京都の“知”の原点を探る」と題して「京都大学」を取り上げました。

かなり偏った見方に基づくこの作品が、今回、最優秀賞の栄誉を獲得しましたことは、誠に光栄の至りであります。さらに私としては、これを契機に都草の活動領域を過去の歴史遺産を尊び大切に守り継ぐことに加え、京都に胎動する新しい文化リソースを育てていく方向にも広げていくことを、誠に僭越ながら願っているしだいであります。（理事 久宗 圭一）